

動いた分だけ自分が広がる 福井工業大学という場所

自ら問題を見つけ、解決する力を作る。
「福井工業大学」では、教室を飛び出したアクティブな学びが行われている。
ここで夢を実現する力を日々育む、富山県出身の学生を紹介する。

人としても成長できた 「小原ECOプロジェクト」

福井県勝山市の小原集落は、集落人口1人という廃村寸前の限界集落。その豊かな自然環境や優れた集落景観、特徴的な民家を保存しようとして平成18年に立ち上がったのが「小原ECOプロジェクト」だ。福井工科大学建築土木工学科の教員と学生、旧地元民や森林組合などの協働で行われ、今年で11周年を迎える。

「大学生活を漠然と過ごすより、何か新しいことに挑戦したかった。こう語る鴨野椋汰さんは1年生の時からプロジェクトに参加している。

活動は夏期休暇の約3週間を利用し、携帯もネットもつながらない山奥の民家で合宿しながら行われる。「最初はへこたれそうでした」と笑う鴨野さん。「建築物に触れるのも初めてなら、のこぎりで木を切るのも釘を打つのも初めて。棟梁に叱られながら、民



鴨野椋汰 (かもりのりょうた) さん
高岡第一高校出身
建築生活環境学科 3年

教室の外の「社会の現場」で たくさんの人、夢と出会った

小原ECOプロジェクトのような教室内の講義にとどまらない「アクティブラーニング」は福井工大の真骨頂だ。一方通行で学ぶのではなく、学生自らテーマを発見し、時に外に出ていく。正課授業以外にもさまざまな機会が用意されている。「元は人見知りな性格」と自称する鴨野さんもプロジェクト以降、自治体やまちづくりのNPOなど大学外の活動に積極的に関わることができるようになった。

「プロジェクトで知り合った人に『もっと自分を出していいよ』と言われ、何かがふつ切れた。今は人と会ってまちづくりの話聞くのが楽しい。自分の中に方法論を蓄積している所です」

将来は実家の電機関連会社を継ぎ、建築部門を拡大するのが夢。「それには一度社会に出て、多くを学ぶ必要がある」と鴨野さんは前を見る。

「福井工大だから小原のようなプロジェクトにも関わられたし、素晴らしい出会いにも恵まれた。研究室だけでなく、社会の現場に足を運んで、自分の心と手を動かして学べる。それがこの大学の最大の魅力です」。自分が動いた分だけ、可能性が広がって夢に近づく場所。それが福井工業大学だ。

富山県出身のOBに聞きました

大学で身につけた知識を、 今は毎日「実践」しています。



牧野工業株式会社 勤務 高田 祐香里さん 2015年建築学科卒

建築や鉄骨工事のための鋼材加工を行う牧野工業に勤務しています。就職活動中は、建築学科で学んだことを活かせる会社で働きたいと考えていました。牧野工業は、環水公園展望塔や富山市民プールなどの施工実績があります。市民に親しまれ、ランドマークとなる建築物をいつか自分も手掛けてみたいとの思いから入社を決めました。

現在は、CADで鉄骨加工の詳細図を作成しています。大まかな図面を読み取り、実際に鉄骨が使われる現場での耐久性や施工しやすくする工夫が必要となります。加工の仕方によって必要とされる強度などが異なるため、材料の特性をよく理解していないといけません。

大学の卒業研究のテーマが鉄骨加工について実験を重ねて検証していくというものでしたので、いまの仕事に役立っています。指導してくださった辻岡静雄教授が就職先の業務内容を把握し、アドバイスしてくださいました。鉄骨を組んだり、溶接したり、測量したり、論文のデータだけでは感じるできない実験を通じて学んだことが非常に参考になっています。学生の進路に合わせた適切な研究指導に感謝しています。

今の目標は、2級建築士資格の取得です。いつか自分で設計したマイホームを建設したいと思っています。



先生や友人、家族に改めて感謝できた卒業式。

自分の道を、
自分らしく
歩むために。



- 工学部
 - 電気電子工学科
 - 機械工学科
 - 建築土木工学科
 - 原子力技術応用工学科
- 環境情報学部
 - 環境・食品科学科
 - 経営情報学科
 - デザイン学科
- スポーツ健康科学部
 - スポーツ健康科学科

福井工業大学
Fukui University of Technology
福井県福井市学園3丁目6番1号
TEL.0776-29-2620(代表)

<http://www.fukui-ut.ac.jp/>



小原ECOプロジェクトの内閣総理大臣賞の表彰式は平成28年3月に首相官邸で行われた。